

AI (Artificial Intelligence) は ICT 進化の姿

～簡単に使えるからこそ工夫して使う～

AG+ ICT 部会 モース結子

2023 年度までの小学 6 年国語の教科書では、「プログラミングで未来を創る」という資料が使われています。その中で筆者である石戸奈々子さんは、「『コンピュータとはどのようなものか。』『どのようなプログラムによって、コンピュータがどう動くのか。』といった知識が重要になります」としたうえで、「プログラムもツールにすぎません。大事なことはそれを作る『プログラミング』によって何を表現し、何を作り出すかです」と書いています。

AI を使用する際には、ほとんどの場合インターネットにつながりますから、その AI をどのようにプログラムして学習させているのかを知った上で、授業や課題に取り入れていくことが大事なのだと言えるかもしれません。

AI を含む ICT 全般の技術は、教育の現場であれば課題の学習観点や目標などを意識しながら使うことで、職場であれば情報モラルや個人情報保護の視点に気遣いながら利用することで、効果的な問題解決や効率的な作業を生み出す便利なツールとしての社会的な位置が定着し、多くの社会人の日常に今後も深く関わっていくことでしょう。

以下は、今まで手作業で行われていた方法をコンピュータ上で試した場合の例です。

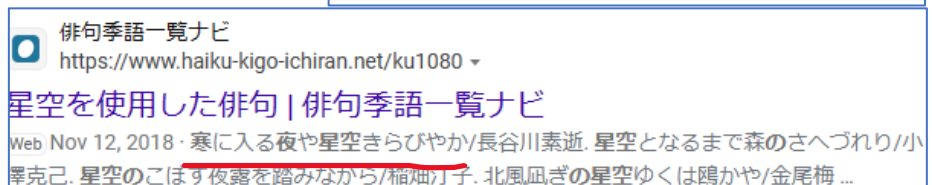
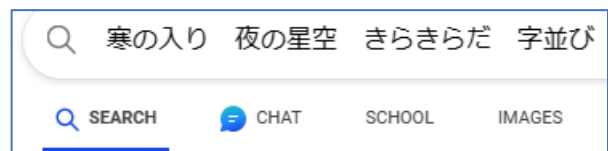
教員が何を目的に ICT を使うのか捉えやすいように、「意図に応じて（俳句のきまりをまもって）、感じたことを明確にするために（自分の気持ちを言葉で表現するために）、語感を意識して使いながら（冬を伝える語を選びながら）俳句を作ろうとする」課題目標があるとします。

○Bing のサイト検索を使った手抜き作品の宿題添削

教員：オリジナルな冬の俳句を二つ作りましょう。

生徒：「寒の入り 夜の星空 きらきらだ」

教員：（あれ？見たことがあるような…。検索してみよう！）他人の作品を自分の作品であるかのように使うことを「盗作」と言って、一字二字変えて使うことも、それと変わらない行為になりますよね。



この場合、少ない語彙の中から語感を意識して語を選び、自分なりの感じ方があることを表現しようとする主体的な態度とは正反対のことをしているとも言えるかもしれません。そのため、情報の取り扱いマナーを指導することと合わせて、評価を据え置きにして再提出させるか低い評価をつけて返却するかは、生徒の学齢に合わせた判断が必要になるかもしれませんね。

OBing の ChatAI を使った俳句創作の指導

教員：「寒に入る 夜や星空 きらびやか」を例に、切れ字のある俳句を作ってみましょう。初めに、冬の季語や感じること、切れ字の意味を確認しましょう。

ChatAI 入力：“切れ字「や」使った冬の俳句を作る”

こんにちは。冬の俳句を作りたいということですね。以下の手順に従って、切れ字を使った冬の俳句を作成することができます。

1. まず、冬の季語を選びます。例えば、「雪」「寒」「霜」「氷」「冬木立」などがあります¹。
2. 次に、場面や気持ちを切り取ります。例えば、「雪景色を見ているときの感覚」「寒さに耐えるときの思い」「霜に覆われた草木の美しさ」などがあります¹。
3. 最後に、五・七・五の形にあてはめて読み上げます。切れ字を使うことで、俳句に詠まれた情景や心情がより強調されます¹。

また、切れ字を活用することで、俳句に余韻を残すことができます。例えば、「雪の降る夜、静かに歩く」という句において、「雪の降る夜」と「静かに歩く」の間に「、」を入れることで、切れを作り、余韻を残すことができます²。

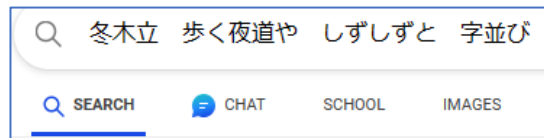
以上の手順を参考に、素敵な冬の俳句を作成してください。^{1 3}

生徒：「雪の降る 夜や静かに 歩く道」

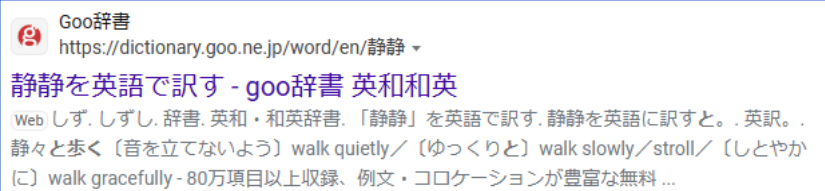
教員：切れ字の使い方を理解しています。今度は自分が感じる冬の風景を俳句にしましょう。

生徒：「冬木立 歩く夜道や しずしずと」

教師：切れ字、冬の季語を使った俳句ですが…（言葉の意味を知った上で使っている??）



この場合、語感を意識した言葉選びを期待する上で、ぴったりと合った言葉を探る態度を育てることを目的に、プリントには俳句の大意を書く欄を設けておいて、そこに「しずしず（静静）」の意味（しとやかに歩く様子）を



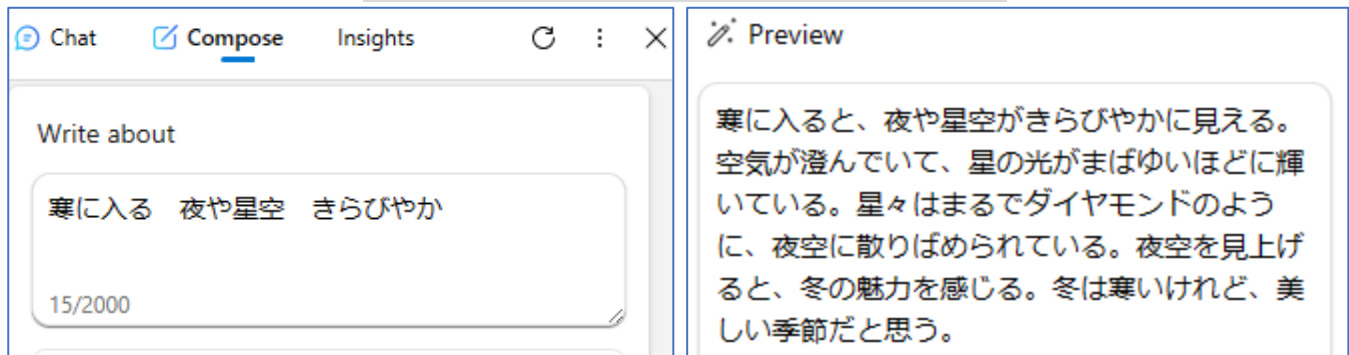
指摘したり、「とぼとぼ・カサコソ・しんしん（深々）」などをコメントに添えたりしてあげても良いですね。

○生徒が Bing の生成 AI で俳句を作ったらしい (?) 宿題の添削 (グレーゾーン)

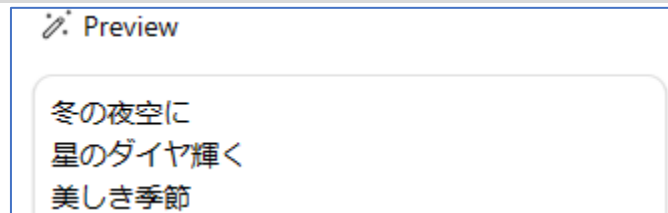
教員：教科書にある俳句を参考にしながら、冬の俳句を作ります。宿題プリントを確認しましょう。切れ字、季語、俳句のきまりに注意しましょう。

生成 AI 入力と選択肢：“寒に入る 夜や星空 きらびやか” “Enthusiastic” “Short”

生成 AI 修正選択肢：“星空の様子を詳しく”

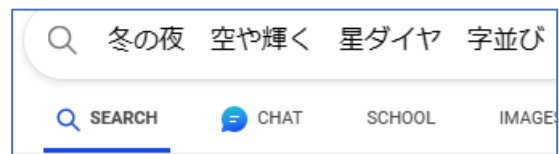


生成 AI 入力：調整後のドラフトコピーに “の俳句を作る” を加える

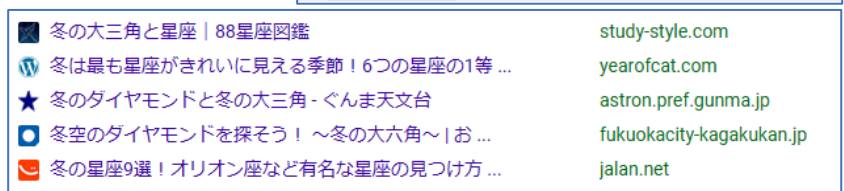


生徒：「冬の夜 空や輝く 星ダイヤ」

教師：切れ字、冬の季語を使った俳句ですね。(この生徒の個性が出ているような、いないような…。)



この場合、切れ字の使い方や冬の風景描写がある程度は評価できるでしょう。家庭学習であるため、生徒の語彙力や日ごろ



の表現力に留意したり、俳句の大意を説明する文章と語の選び方を比較したりしながらの評価が必要なのは、今まで通りかもしれません。また、類似した俳句は見当たらなくても、使われている語の一般性を検索することは、表現力や創意力の目安になるかもしれません。

便利な反面、落とし穴もあるので気をつけて使いたいものです